

☆☆☆ブッポウソウとは☆☆☆

形態・生態

体長 29.5cm。

成鳥は全体が金属光沢のある青色で、頭部や顔は黒褐色。

平地から低山地の樹林、集落や耕作地に隣接する樹林などに生息し、主に飛翔性昆虫類を食べる。

渡り鳥であり、日本には暖かくなると繁殖のため
めに飛来する。

分布の概要

本州、四国、九州で夏鳥。

都における生育・生息環境

以前は奥多摩や南多摩の社寺林など、大径木のある樹林で繁殖していたが、現在は渡りの時期に通過する個体が見られる程度である。

近年急激に減少しており、絶滅のおそれのある野生動植物のひとつとして、環境省の指定するレッドリストで、絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されている。また、東京都の指定するレッドリストでも、西多摩地域では絶滅危惧 I A 類 (CR) に指定されている。



写真提供：天龍村

日本におけるブッポウソウと高尾山との関係

ブッポウソウは光沢のある青色の羽毛をもつ鳥であり、翼の白い斑紋によるコントラストがその美しさをより際立たせている。その見た目の美しさだけでなく、夜に「ブッポウソウ（仏法僧）」と鳴くと信じられてきたことから、1000 年以上霊鳥として多くの詩歌に詠まれてきた。後に、「ブッポウソウ」と鳴くのは、コノハズクであることが判明した。

ブッポウソウはかつて高尾山でもみることができた鳥である。高尾山では、しばしばムササビを観察することができるが、このムササビとブッポウソウは、どちらも巣穴の入り口の大きさが同程度なのである。そのため、過去には同じ巣穴を利用する姿が見られたといわれている。しかし、周辺の変化等から、今ではほとんど確認することができないため、今後、高尾山で再び見られることが期待されている。

(出典)

- ・中村浩志、『甦れ、ブッポウソウ』、山と溪谷社、(2004.6)
- ・『野鳥 6 月号』、公益財団法人日本野鳥の会、(2018.6)
- ・「環境省レッドリスト 2018」、環境省、(2018.5)
- ・「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010 年版」、東京都、(2010.3)